

ICT 社会の変化に対応するための教材の検討

大阪芸術大学 音楽学科 教授 志村 哲

はじめに

本研究の補助費を申請した 2019 年 11 月には、2020 年度の大学授業が、4 月当初から全面的にリモートによって実施することになるとは、誰も予想していなかった。ただし、研究の目的と方法が、我々の長年の構想であったインターネット上で開講される音楽大学の授業形態／開発の一環であったので、それが一気に実現しなければならぬ機会となったことについては、着手当初の社会情勢を思い返せば隔世の感がある。

本学は、2001 年度よりインターネットを活用した通信教育部音楽学科を開設しており、私はその設置準備とカリキュラム作成に携わっていた。当初、国の制度上、すべての授業をインターネット上に開講することはできなかったため、2019 年度までは東京会場、大阪会場に出向いてのスクーリングを実施してきたが、私は、将来的にはこれらもインターネット上で開講できるよう、教材と学生作品のデータ化が必要であると考えてきた。そこで本年度は、芸術学部音楽学科と通信教育部音楽学科が共通に使える教材を、どのように作り出せば良いかを検討しつつ、教材の開発に専念した。

1. 研究の目的と背景

私は、音楽学科および通信教育部音楽学科の授業「フィールドワーク」「音楽データベース」等において「IT 社会のための情報音楽 Web 博物館プロジェクト」という独自の枠組みを設けて、教材開発をすすめている。その元となる方法は、以前から学会、私学情報教育協会等で、度々報告してきた(志村哲 1998)。ところが、その間にも ICT 関連のハードウェア、ソフトウェアは著しい発展を遂げ、開発環境および、配信できるコンテンツの量とクオリティーは大きく変化した。こんにち、音楽学科開講授業がカバーすべき音楽種目は、全世界の様々な様式、時代のものが対象となるが、その中でも本学が所蔵する「日本の電子音楽」「日本の伝統音楽と楽器」に関する史料は、他にはない独自の背景の中で集められたものである。また、現在、歴史的鍵盤楽器、個々の特徴と調律／修復技術に関わる授業も充実しているので、今後、卒業生は新しい音楽世界／楽器関係の領域で活躍できる可能性がある。一方、音楽文化の現状は、メディア(そのハード、ソフトとも)の発達とも関わって、いつそうの多元化が進み、これからの学生／一般の興味もさらに多様化するであろうと考えられるので、その様々なニーズ(多数派、少数派の音楽とも)に対応できるような教育資源を持

つ必要がある。さらには、人間が演奏しなくても音楽が作れる時代にあつて、人々の音楽との関わり方、聴き方、そして音楽そのものの在り方も変化しつつある。ただし結局のところ、新しいものが古いものに勝るわけではなく、現在の音楽界は、時間的にも空間的にも様々なものが併存している。本研究は、こんにち的課題、あるいは音楽文化の将来像を見据え、それらの現状把握と、支えになるようなコンテンツの開発を目指す。

2. 研究の概要

研究の大前提は、現在、本学が配信している Web 教材および所蔵資料(現物)と、それを活用したマルチメディア教材開発の方向性を定めることである。また、最新の情報技術を応用した音楽の記録とデータ化／配信方法の評価を経て、これからの音楽教育、研究、啓蒙に有効なコンテンツを、Web 上に提示していく方法論を検討し、実験的なコンテンツの開発を実施する。

2.1. 伝統楽器の制作およびリペアに関わる現場調査

洋の東西を問わず伝統的音楽における楽器製作者、修理・調整技術に関わる作業現場が、どのような空間、楽器、その他の音楽資料を所有／参照し、作業方針を決定しているかについて、インターネット上と現地調査を実施するとともに、夫々が重視している要件をどのようにデータ化すれば良いかを検討した。

2.2. 現代の様々な音楽におけるデータ化の検討

こんにちの音楽は、19 世紀以前の音楽とは異なり、電子テクノロジーを応用した様々な形態、享受の在り方が生まれた。また、アコースティック楽器においても、新素材の適用や設計方法は大きく変化している。そこで、これらの現状を調査し、特徴の記録やデータ化の方法を検討した。

2.3. 諸資料の多視点的ドキュメンテーション

最新の記録機器(録音、録画機器)および、計測／分析機器を用いて、諸情報の可視化、数値化、文字化等を実施し、音楽を担うインサイダーの視点を反映したドキュメントを作成した。また、本年度の遠隔授業において、現場からの配信のほか、様々な条件によるプレゼンテーションを実施し、その効果を確認した。〈参考文献〉志村哲 1998「音響画像データベースと音楽研究 - パーソナル・コンピュータ環境とインターネットの活用」東洋音楽学会誌『東洋音楽研究』第 63 号、pp. 124-130.